

# 21世紀ひょうご市民学会 会報

20号  
2012年5月31日

—編集・発行—

21世紀ひょうご市民学会

「神戸生活創造センター」登録番号 630

代表世話人 澤木昌典

<http://www.hyogo21ctzn.com>



## 節電の夏

原発停止の下、去る5月18日、政府より今夏の電力需給対策が発表され、原発依存度の高かった関西は、7月2日～9月7日の間、一昨年の猛暑時に比べ15%以上の自主節電を要請されました。

他地域にも節電協力を頂く以上、家庭でも関西の知恵で節電目標クリアーを！

エアコン設定温度アップ、ラジオ復活、扇風機やうちわ活用、クールビズ、早起早寝・・・ローテクで工夫しましょう。



## 吹屋（岡山県）ふるさと村見学研修旅行実施さる

去る3月5日、街並景観見学研修の一環として岡山県高梁（たかはし）市の「吹屋ふるさと村」見学研修旅行が実施されました。参加者は澤木代表以下会員の親族・知人を含め24名。朝、JR神戸駅前からバスで出発、昼過ぎ目的地に着きました。そこは山間の村ですが、江戸中期から戦前まで、銅とベンガラ（顔料）生産で栄えた街。ベンガラ格子の昔の家屋等がそのまま残った重要伝統的建造物群保存地区、当時の粋を凝らした木造では日本最古といわれている吹屋小学校舎、巨大な窯元屋敷など、当時の繁栄ぶりを彷彿させるとても有意義な歴史の旅にもなりました。

## お知らせ

- 第24回知的サロン 平成24年6月14日（木） 15時～17時  
場 所 : 神戸生活創造センター 5階（JR神戸駅前クリスタルタワー）  
テ - マ : 「私の子どもの頃」  
話 題 提 供 : 津田美智子氏  
\*参加のご連絡は世話人あて、メールにてお知らせください。  
メール連絡でない方には返信はがきを同封しています。  
知的サロン担当世話人（松原） [kouji-ma@fa2.so-net.ne.jp](mailto:kouji-ma@fa2.so-net.ne.jp)  
[hyogo21ctzn@yahoo.co.jp](mailto:hyogo21ctzn@yahoo.co.jp)



- 平成24年度（第6回）総会は7月に開催予定しています。

\*詳細は別途連絡いたします。

## 第3回 研究会報告「高齢者問題」

# 『高齢者の生きがい』

平成24年1月12日(木) 塩野 勝



塩野勝氏

はじめに

「高齢者の不安の3K」は健康、経済生活、こころ(生きがい)である。このなかで、こころ「生きがい」に注目する。

高齢者の生きがいとは  
(20年前の調査結果から)

64歳までの人では1位が「生きる喜びや満足感」、2位が「生活の活力やはりあい」、65歳以上の男性高齢者では2位に「他人や社会の役に立つ」、65歳以上の女性では1位に「心の安らぎや気晴らし」があった。

生育した年代(20年前)

- A 群：現在65歳以上の高齢者(敗戦時成人しており価値観が出来上がっていた)
- B 群：50～60歳(学齢期に民主主義教育の洗礼を受け、戦前の価値観との狭間で意識を構築)
- C 群：団塊の世代以降

A・B群の生きがい

A 群は孫の成長を楽しみ、自然に親しみ、仲間と趣味を共有して静かに暮らすことであろう。

B 群は静かな社会構成員から積極的に社会の一員たろうとする意識が加わる。A 群より権利意識が強く、自己実現欲求も強い。彼らは老人クラブのゲートボールや温泉旅行のように隔離された同室者集団の中では決して満足しない。

レジャーの社会化がカギ

- レジャーという言葉は、ただの気晴らし、生活と切り離れたところでの遊びのイメージが強い。これからの高齢者は働く、学ぶのすべての分野に「社会性」を求める。
- 労働を単なる生活の手段としてとらえず、社会的価値を求め、遊びも社会に向かって自己実現できるものを求めるだろう。
- 若者のユニークな試みであるピースポートに高齢者の参加が増えてきたのは、船旅に別の価値を求めている現われと言える。

日本のシニアの現状と課題

- 日本人の平均寿命は男性 78.56 歳、女性 85.5 歳(2005年)

- 60歳以上の高齢者の健康意識の調査(平成18年度内閣府)では日本 64.4%、アメリカ 61.0%、フランス 53.6%、韓国 43.2%、ドイツ 32.9%。日本は健康と思っている人が多い。
- 2007年問題:戦後ベビーブーマー「団塊の世代」が60歳の定年期を迎えることで労働力の減少、経験技術の喪失などが予想された。しかし企業が行った定年延長等によりその問題は杞憂に終わった。
- シニアの就業状況  
男性：60～64歳で70%未満、65～69歳で50%未満が就業している。  
女性：60～64歳で40%、65～69歳で30%弱が就業している。
- 定年後の生き方  
60歳代はプロダクティブエイジング(生産的高齢者)が主願。  
70歳代になると、サクセスフルエイジング(幸福な老い)が主願となる。  
どちらにも共通するものは「生きがい」を求めていることである。
- シニアの生活意識  
\*加齢に伴い、社会活動の目的が「経済目的」から「健康維持」や「知識経験を役立てたい」に移行。  
\*年金受給年齢の65歳が制度改革によって、70歳、75歳等が転換期になるかもしれない。
- 年齢階層別に見た家族構成・年間所得の分布。
- 所帯主の貯蓄の分布は棒グラフのため割愛します。

高齢者の意識調査

- 性別～年齢階級別構成:平成13年、17年、22年調査の比較ではあまり変わらない。
- 現在、どの程度の生きがいを感じているか?  
48.2%が十分感じている。37.4%が多少感じている。健康状態の良い人が幸福感に関連している。
- 生きがい(家族形態別):感じているのは、夫婦二人世帯が良いが、単身は感じていない模様。
- 健康状態:平成13年、17年、22年の比較では、良い方向に向かっている。
- 家族構成:平成13年、17年、22年の比較では、徐々に三世帯家族が少なくなっている。
- 近所付き合いの程度:「親しく」が51.0%、挨拶程度が43.9%で、まあ良い状態にある。
- 親しい友人・仲間の有無:「沢山持っている」が33.7%、普通が44.1%で、まあ良いと言える。

- \*頼れる人の存在の有無:同居の家族が一番多かった。
- \*参加した活動:体操、歩こう会、ゲートボール等が33.7%、祭りなど26.7%、俳句・詩吟など26.5%、活動など参加したものはない31.9%(問題である。健康、体力に自信がないとのこと)。

### 前期高齢者と後期高齢者

65歳以上を前期高齢者、75歳以上を後期高齢者と分けた(2008年4月)。

要介護等認定の状況は、前期高齢者は3.3%、後期高齢者は21.4%であった(平成19年3月暫定版)。

### 結論

- 日本人の寿命は、飛躍的に伸びた。
- 長生きしても何をすることが問題。
- 健康で経済的にも心配のない人は、「生きがい」を追求するようになる。
- そのためには、周囲の状況にも恵まれていなければならない。
- 家族の中での存在価値、近所付き合い、友人・仲間の有無、活動するチャンス・“学ぶ”などが必要。

### \*参考にした文献

1. 「日本のシニアの現状と課題」:  
TV朝日福祉文化局:エイジング総合研究センター(JARC)のレポートより(平成21年度版)
2. 「高齢者の生きがい」:大友博子、日本ロイス株式会社主任研究員(平成4年4月)
3. 「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査結果」平成23年3月:内閣府政策統括官(共生社会政策担当)

### 「生きがい」にかんするフリートーク

#### \*学ぶ

- 友人が、某外大ロシア語科卒だが、ロシア語の利用が少ない。そこで、定年後中国語を勉強して東大の博士課程へ入学し、週2回新幹線で5年かけてマス

ター(修士)を、さらに2年かけてドクター(博士)を取得した。勉強したことで生きがいつくり繋がり自己実現した。

- 当会(21世紀学会)のスタート時の設立目標に“学ぶ”があった。
- 当会には、電気・園芸・エネルギー関係など各界の人がいて、話が聞けて大変有意義であった。

### \*宗教

- 宗教が「生きがい」に繋がるのでは?  
2年かけて四国88ヶ所をお遍路として回ったところ、多くの人と知り合い、いろいろの話ができた。宿泊でも、酒・肉が出て宗教だけでなく信仰・健康・観光を体験した。
- 仏教では、悟りをひらくのが生きがいで、他に宗教で「生きがい」をまとめた資料はない。

### \*認知症

- 高齢者についての講演会の話で、高齢者の死亡は脳卒中が多い。認知症の初期は徘徊をする。デタラメに歩いていないので怒ったり、指摘しないこと。
- 認知症の徘徊を介護した体験談では、普通では考えられない行動をする。

### \*社会制度

- 高齢者の社会活動が変わってきているので、社会的定年・労働定年・選択定年を考えては?
- 高齢者の発言力が少ない。65歳以上の人の発言機会を増やす方法は?
- 昔に比べ、高齢者が子どもに諺を教える機会が少ない。例:“アホの一寸、ノロマの三寸”など。
- 今の大人は、若い者への教え方が下手である(教える方も、受ける方にも問題は?)。
- 阪神・淡路震災の教訓が、なぜ東北に伝わらなかったのだろうか?

(文責 中川)

## 第4回 研究会報告「高齢者問題」

# 『世界の高齢者分布と社会福祉・社会問題 (その1)』

平成24年3月16日(金) 中川 政美



中川政美氏

### 1. 世界の人口

現在、70億1999万218人(米  
国勢調査局と国連データからの推定)。

世界の人口は、1年で7千万人増えている。人口増により、

水と食料、病院と学校が不足している。国連が発表している2010年版の「世界人口予想」では、21世紀半ばの2050年度までに90億人を突破、その後は増加のペースが鈍化していくものの21世紀末までに100億人を突破するだろうと予測されている。

## 2. 日本の人口（2010年の国勢調査の結果）

日本の総人口は、1億2805万7352人（外人含む）であり前回調査（2005年）に比べ28万9359人増加している。

日本人の数は1億2535万8854人で、前回調査（2005年）に比べ37万人（0.3%）減少した。

## 3. 人口の多い国トップ10（2010年国連人口基金）

1位	中国	13億5410万人
2位	インド	12億1450万人
3位	アメリカ	3億1760万人
4位	インドネシア	2億3250万人
5位	ブラジル	1億9540万人
6位	パキスタン	1億8480万人
7位	バングラデシュ	1億6440万人
8位	ナイジェリア	1億5830万人
9位	ロシア	1億4040万人
10位	日本	1億2700万人

\*中国とインドで、全体の約4割

\*ヨーロッパのEU27国は、合計で4億9万人

## 4. 平均寿命

世界全体の平均寿命は71歳で、男女別では男性67歳、女性74歳（2007年時点、WHO）。日本の平均寿命は83歳で、男女別では男性79歳、女性86歳（2007年時点、WHO）。

### ●平均寿命の長い国（2011WHO推計）

- 1位 83歳＝日本、サンマリノ、スペイン、イタリー、スイス、オーストリア。
- 3位 82歳＝アイスランド、イスラエル、シンガポール、モナコ、アンドラ。

### ●短い国

- 188位 48歳＝アフガニスタン、レント、ザンビア。
- 193位 47歳＝マラウイ、チャド、中央アフリカ。

「平均寿命」とは Wikipedea によれば、個体群の各個体の寿命の平均である。この場合の寿命とはいわゆる「天寿」ではなく、死因にかかわらず生まれてから死ぬまでの時間である。つまりゼロ歳における平均余命のこと。

「年齢調整死亡率」とは、都道府県ごとの異なる年齢構成を調整し、人口10万人あたりの死亡者数を算出して比較する。2000年から採用されている。2012年3月1日の毎日新聞によれば、厚生労働省は1日、都道府県別の年齢調整死亡率（2010年）を算出し、男女とも長野が最も低かったと発表した。5年ごとに実施され、長野は男性が90年以降5回連続で最も低く、女性は前回05年調査で全国2番目に低かった。

死亡率が低いのは、男性が長野477.3人、滋賀

496.4人、福井499.9人の順。女性は長野248.8人、新潟254.6人、島根254.7人。

逆に高いのは、男性が青森662.4人、秋田613.5人、岩手591.1人。女性は青森304.3人、栃木295.7人、和歌山294.5人と続いた。

長野の死亡率が低い理由について、同省は「保健師らによる食生活の改善運動や病気の予防対策に熱心にとりくんでいるためでは」と指摘。

東北地方で高い地域が目立つのは「塩分摂取量などの食生活・喫煙など生活習慣の要因が考えられる」としている。

## 5. 推計人口と分布

	65歳以上 (高齢者)	15-64歳 (生産年齢人口)	14歳以下 (年少者)
日本全体	22.7%	63.9%	13.3%

(2009/10/1 現在)

### 兵庫県

	65歳以上 (高齢者)	15-64歳 (生産年齢人口)	14歳以下 (年少者)
2010年	21.8%	63.6%	14.5%
*2020年	29.6%	59.4%	12.9%
*2040年	38.1%	52.4%	9.4%

\*印は21世紀兵庫長期ビジョンの推移予測値による。2012年1月30日に公表された新しい人口推計で、厳しい少子高齢化が続く見通しが示された。50年後の人口は今の3分の2に落ち込み、高齢者1人を現役世代1.3人で支える社会になる（2010年は2.8人で1人、1960年は11.2人で1人を支えていた）。

世代構成のバランスが崩れると、世の中に広くひずみが及ぶ。社会保障（年金・介護・雇用）など、暮らしを支える仕組みはどうなるだろう。

年金：年金支給開始年齢の引き上げ論。年金減額調整の波など。

介護：介護保険料のUP、70-74歳の窓口負担2割へ。

雇用：少子高齢化や人口減に歯止めかからないと、社会や経済の活力が失われていくおそれが強い。今回の推計は、労働と消費の両面で社会を支える「生産年齢人口」（15-64歳）が、50年後に半減すると見込む。

- 1) 増える高齢者の活用が対策のカギ。
- 2) 家庭にいる女性の労働力をひきだす。  
共働き家庭が悩む待機児童の解消。
- 3) 少子化対策。

以上、2012年3月31日朝日新聞による。

## 6. 話題提供後のフリートーキング

- 1 人口の分布は、年少者・生産年齢人口が高齢者側に寄る傾向は、どの資料にも明らかな傾向がある。
- 2 少子高齢化および人口減に関し、結婚しない人の増加・晩婚などは？
- 3 人口増は、80億で止まるのでは？との説もある。
- 4「生産年齢人口」層は、どんなことに働きがいを感じているのだろうか？
- 5 年金制度は、運用資金を投資で失敗したことに問題があった。

## 6 その他

原子力発電が震災で見直しの状況にあり、石油は埋蔵量限界も囁かれ、発電用に石炭が復活の状況。鉾石と石炭を活用している製鋼所は発電にも活躍している模様。天然ガスも効率が良いので活用の模様。

(文責 中川)

## 第22回 知的サロン

# 『奈良北部の民間正月行事から』 平成24年2月10日(金) 野口 民治



野口民治氏

### はじめに

奈良北部地域の特色のある年中行事を紹介する。

### 1. 正月準備

正月を迎える準備を始める日はハレの日の一つとして定められていた。一部の行事は、神社・氏子等を中心に現在も続いている。

### 2. 餅つき

餅つきもハレの行事で、目的・用途により、種々の形の餅が作られている、夜は特別な食事をし、元日に一人ひとりに「年玉」の餅を据える風習も一部に残っている。

### 3. 墓参

現在も大晦日に墓参をし、正月神を祀る臨時の神棚をつくる所が多い。一部の地域ではフクマル迎えと称して大晦日の夜、正月神を迎えに行く行事がある。村内の道、氏神の参道などに鱗状に砂を撒いたり、庭先に砂で太陽を象る絵を描いたりする、広く行われていてアタラシサンとかスナマキと呼んだ。正月神＝祖霊を迎えるため、この地域独特の行事ではないか。

### 4. 正月

正月に使う箸雑煮を炊くときに使う火箸を年末に戸主が作る風習が広くみられる。素材は栗または樫の枝。中央に樹皮を残し、両端を白く削った。イワイバシの原型である。

### 5. 若水

元日早朝、多くのところで家長が初水を汲んだ。特徴

的なのは井戸か桶に橘やミカンなどを入れ、この水で顔を洗ったり、雑煮の差し水に使った(若水と柑橘類の組み合わせをどのように考えるか。柑橘類は古来から貴重な食品であったのか)。

### 6. 雑煮

雑煮を作るのは主人とするところが多い。地域によりコドフ(或いはコドウフ、粉にした生大豆と米粉を湯で練り、細長く切ったもの)なども入れた。餅は焼いて入れ、黄粉をつけて食べる。これは河内地方では見られないようで、奈良北部特有の風習か。

### 7. 仕事始めに寺で使う

1年分の薪仕事始めに寺で使う1年分の薪を調える(寺柴づくり)地区、各戸の主人が息子を連れて自家の土地の範囲を見て回った(傍示挿し、今では、村境を見て回る)地区などある。

### 8. 勧請掛け

日時・様式はまちまちだが勧請掛けと称して集落の入り口の道・谷の上に大きな注連縄を張り渡す集落総出の重要な行事があり、各地で今も行われている(1月7日前後)。

### 9. 七草粥

七草粥を炊くのは主人とする所と女性の所がある。菜を刻むときに歌を歌う所が多い。文句は夫々異なるが共通して「唐土の鳥」が出てくるのがおもしろい。

### 10. 小正月

小正月は15日の地区が多いが4日、2月1日、2月5日、2月15日などもある。

トンドをし、虫の口焼き(蛇や害虫防除のまじない)成り木責めをしたり小豆粥を炊く。

特殊な例としてカイコジキと称し、体の弱い人が茶碗を持って家々を訪ね、トンガイを入れてもらって、その家の

門口ですすり、7軒回れば体が丈夫になるとした地域もあった。

## 第23回 知的サロン

# 『放送の歴史』

平成24年4月12日(木) 松原 宏治

はじめに

日本全域のアナログテレビ放送が、地上デジタル放送に。移行が完了した。(2012年3月末、延期の東北3県も完了)

### 1. ラジオの放送開始



松原宏治氏

日本のラジオ放送開始は、1925年3月(大正14年、大半は鉱石ラジオ使用)。

### 2. テレビの放映開始

日本のテレビ放映開始は、1953年3月。

皇太子と美智子さまの結婚: 1959年4月。

### 3. テレビのカラー化

日本のテレビのカラー開始は、1960年9月東京オリンピック開催(1964年)で急激に普及増加。

### 4. テレビCM開始

TBS(KRT): 1959年4月より開始。

日本テレビ: 1966年4月より開始。

フジテレビ: 1966年10月より開始。

### 5. テレビの番組

「兼高かおる世界の旅」 : 1960年

「新日本紀行」NHK旅番組: 1963年

「花の生涯」NHK大河ドラマ: 1963年

「赤穂浪士」NHK大河ドラマ: 1964年

「太閤記」 NHK大河ドラマ: 1965年

### 6. FM放送

日本では、NHKが開始: 1969年3月

### 7. 衛星放送(BS、CS)

日本では、NHKが開始: 1989年6月。

### 8. ハイビジョン

NHK衛星第2が開始: 1989年。

### 9. テレビ放送のデジタル化

\* デジタル化の理由(総務省)

①高画質、高音質、双方向、高齢者や障害者に、やさしいサービス、役立つ情報の提供。

②電波の有効利用、デジタル化で大幅にチャンネルを減らし、空いた周波数を他へ有効利用

③世界の潮流、すでに世界の40以上の国・地域で放送されている。

④情報の基盤、デジタル化対応テレビでネットに接続し、より多くの情報を得ることが可能。



吹屋小学校 (3月5日瀬川良一氏撮影)

## あとがき



今号は内容豊富な記事が多く、6ページになりました。

5月の研究会「高齢者の食事宅配について」報告は次号(21号)に掲載します。

21世紀ひょうご市民学会ホームページ [吹屋研修会こちら>>>](#)をご参照。